

第四軍司令部略歴

(除、經、理、部)

通称号満才七一八部隊・光才四四五五部隊

715

年 月 日	概 要	摘 要
昭 13		
7		
昭 16		
8		
昭 20		
8 8 8 8 8 5 6 8		
27 23 1210 9 下旬 26.		
吉林省新京において才五、才六、才七国境守備隊、高射砲才五二大隊、独立瓦 斯才三〇中隊、才一師団司令部才一四師団司令部、野戦重砲兵才一連隊、歩兵 才一一七連隊等よりの差出し人員と現地入隊者をもつて編成完結		
北安省北安に移駐		
同日より同地付近の警備		
北安出発 同日黒河省孫吳に移駐		
同日より同地付近の警備		
龍江省齊々哈爾に移駐		
主力は開戦と共に浜江省哈爾浜に転進		
哈爾浜着		
主力は哈爾浜香坊で武装解除		
牡丹江省海林の元弾薬庫内に収容		
将校の主力は寧安地下獄に収容され、その後昭21—22年の間に帰還したものも		

0408

9 9
中旬 5

ある

残余のものは同地漏成の作業大隊に編入

司令官

初代 中将 中島 今朝吾

二代 中将 後宮 淳

三代 中将 驚津鉄

四代 中将 横山 勇

五代 中将 草場辰平

六代 中将 西原貢治

七代 中将 上村幹雄

入「朴」

0409

第四軍經理部略歴

通称号 滿第七一八部隊 光第四四五五部隊

										年 月 日	概	要
9	9	8	8	8	5	7	7	8	7			
中旬	5	20	15	9	下旬	26	16	下旬	29			
綏芬河経由入「ソ」										吉林省新京において編成完結		
海林において各作業大隊に編入										北安省北安に移駐、同日より同地付近の警備		
哈爾浜において停戦										特臨編一六令付第四号により編成改正		
日「ソ」開戦と共に浜江省哈爾浜に移動										北安出発、同日黒江省孫吳に移駐、爾後同地付近の警備		
哈爾浜において武装解除												

0410

昭
206
ころ

各出張所の状況

1. 哈爾浜出張所（濱江省哈爾浜）

所長　主中佐　増川亮三

哈爾浜において関東軍経理部より引きつぎ編成軍人は僅少で大部分は軍属である。

停戦と共に部隊を解散し一般邦人として生活し引き揚げている。

2. 孫興出張所（黒河省孫興）

所長　主少尉　梅本清長

関東軍經理部孫興出張所より引きつぎ軍属は殆んど一般人と共に内地に帰還している。下士官以上は陣地に入り所属部隊と共に入「ソ」

3. 齊々哈爾出張所（龍江省齊々哈爾）

所長　少佐　鍋山長太郎

関東軍經理部齊々哈爾出張所より引きつぎ第四軍司令部と同行動

0411

昭 20						
11	11	10	8	8	6	ごろ
2	1	30	20	17	11	
満洲里経由入「ソ」	齊々哈爾出発	富拉爾基において武装解除後齊々哈爾に移動	関東軍經理部より引きつぎ	4. 海拉爾出張所（興安北省海拉爾）	所長 大尉 河田徳久	
隊長 大佐 石井 増太郎	齊々哈爾第一九作業大隊に編入	興安東省札蘭屯に移動	龍江省富拉爾基に移動			

0412

第一一九師団司令部略歴

通称号 満第八四〇部隊 満第六一一部隊 宰第二〇四一一部隊

										年 月 日	概	要			
昭 20															
9	9	8	8	7	7	10	10								
16	15	17	16	9	5	4	28	18							
齊々哈爾出發				日「ソ」開戰											
				停戦に伴ない興安嶺出発、博克図に向かう。											
				博克図において武装解除後齊々哈爾に移動											
				龍江省齊々哈爾において作業第三大隊に編入											

0413

昭 20	昭 20	昭 19	7	8	7	10	11	11	8	9
10	9	10				28	25	15	18	18
満洲里経由入「ソ」	海拉爾において武装解除	海拉爾残留隊の行動	海拉爾第二作業大隊に編入、同日海拉爾出発	満洲里経由入「ソ」	三卡（孟克西里）四卡監視哨	第一一九師団編成とともに第一一九師団司令部直轄として本部を興安北省海拉爾に監視哨を西部国境三卡四卡におきその連絡所を頭站に配置して情報の収集と国境警備に任じた。	三卡監視哨は見習士官橋本宗於以下二〇名と交代勤務	「ソ」軍は午前四時半ごろ一齊に砲撃を開始するとともに歩兵部隊をもつて包囲攻撃し、諸施設を瞬時にして壊滅しその後監視哨の状況は不明であるが全員戦死したものと判断される。	四卡監視哨は軍曹稻木重春以下二〇名と交代勤務	

	8	11	11	8	8
	9	25	15	13	9
隊長 中将 塩沢清則					

午前六時ごろ本部からの撤退命令により七時ごろ同地を出発したが黒山頭付近で稻木軍曹以下七名とその他の者の二組に別れて行動した。

稻木軍曹以下七名は黒山頭から山中を迂回して八月十二日拉布大仁部落（黒山頭東方約五五糠）付近で根河を渡河

渡河地点付近で「ソ」軍に捕えられ海拉爾に送られた。

海拉爾第一二作業大隊に編入、同日海拉爾出發

満洲里経由「ソ」

その他の組は稻木群と別れて間もなく「ソ」軍の攻撃を受けてそのほとんどの者が戦死又は生死不明となつた。

0415

第一一九師団司令部三河向地観察隊略歴

通称号　満第二〇八部隊　宰第二〇七一一部隊

年月日	概要	摘要
昭20	昭19	昭18
5	10	2
28	1	
	第二三師団歩兵第七一連隊第三中隊を「ナラムト」に派遣し、三河地区の国境 警備並に情報収集に任じた（「ナラムト」警備隊と呼称）	
	第二三師団の南方転用に伴い第一一九師団長の隸下となる。	
	独立歩兵第五八五大隊第一中隊及野砲兵第一一九連第一中隊勝又小隊編入に伴 い次の如く編成す。	
	爾後三河警備隊と呼称し主力を奈良穆岡におく。	
本部	三一名	
警備中隊（独立歩兵第五八五大隊一中隊）	一六一名	
向地観察隊	一七一名	
突撃小隊（野砲兵第一一九連隊第一中隊勝又小隊）	六〇名	

0416

	8	9	
			左の如く監視哨を配置
握			<p>吉林 福満少尉以下一六名（外に気象班五名）</p> <p>八 卡 狹野伍長以下一六名</p> <p>七 卡 松崎軍曹以下一六名</p> <p>六 卡 福田伍長以下一六名</p> <p>五 卡 横山少尉以下一六名（外に気象班五名）</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>各監視哨の状況次の通り</p> <p>開戦と共に吉林方面から「ソ」軍進入のため吉林、八卡、七卡、六卡、各監視哨員は全員「ナラムト」に後退したが、既に主力は撤退していたのでこれを追及し、上興爾格において主力と合流し、爾後同行動、五卡監視哨は開戦とともに「ソ」軍の集中攻撃をうけて玉碎した。</p> <p>主力は「ナラムト」出発海拉爾に向かう途中、上興爾格において監視哨員を掌</p>

昭 21										至自	
2	10	10	10	9	9	9	8	8		8	8
16	21	2	1	21	15	13	25	16	16	15	
北安省嫩江着	同地出発	北安嶺分水嶺通過	同地出発	大興安嶺を突破することを決す。	但し突撃小隊は「ナラムト」出発後主力と別行動となり下庫力北方において根河を渡河し、上庫力付近において「ソ」軍と交戦後興安嶺を突破し十月十日北安において主力と合流し爾後同行動						
黒河経由入「ソ」	北安収容所に入所	北安小川作業大隊に編入、同日同地出発	同地出発	竜江省布西着、同地において武装解除	上呂爾格東南、下呂爾格維付近において「ソ」軍騎馬隊の攻撃をうけ三〇〇数名の戦死者を出した。						
隊長 少佐 団 英 敬											

第一一九師団司令部満洲里向地視察隊略歴

通称号 満第八二七部隊 宰第二〇七〇〇部隊

年月日

概

要

摘要

昭 20 19 昭 16

8 10
9 28

第二三師団より一ヶ大隊を満洲里札来諾爾地区に派遣し「ソ」満國境に一〇の監視哨を配置し国境監視並に情報収集に任じた。

第二三師団南方転用に伴い第一一九師団長の隸下に入る。
日「ソ」開戦、開戦時における部隊配置は次のとおり

本部

満洲里

監視哨

満蒙里山

深田兵長以下一一名

金鶴山

太田原少尉以下一一名

旭日山

山崎兵長以下一四名

振武山

吉岡見習士官以下一四名

瑞宝山

田中伍長以下一五名

719

0419

至自

88

209

小原山 土地軍曹以下一二名

大木山 井上軍曹以下一三名

四頭山 中川見習士官以下一八名

加納山 平井兵長以下一二名

宝冠山 酒井少尉以下一六名

開戦とともに「ソ」軍の攻撃を受け僅かに四頭山、大木山、加納山監視哨員が達来湖北側地区において主力の撤退群に合流し得たのみで他は監視哨の場所又は撤退途中全員生死不明となつた。

満洲里所在の主力は八月九日早朝「ソ」軍の急襲を受け同地を出発し海拉爾に向かつたが急追する「ソ」軍に再三攻撃を受け部隊は四散状態となりそのほとんどの者が生死不明で海拉爾以東に脱出したものは僅かに数名のみであつた。

隊長 大尉 石指 律

0420

歩兵第一五三連隊略歴

						年月日	通称号	要	摘要
						昭20	昭19		
8	8	8	6	10	10				
16	12	9	5	28	11				
本部	オ二一大隊の行動	博克図に集結同日同地出発	主力は興安北省開領北方に移動し興安嶺の陣地構築に任じた。	日「ソ」開戦に伴い部隊主力は開領陣地において戦闘体制に入る。	オ三大隊は開戦と共に師団予備隊として新南満北側に位置した。	オ一大隊は野砲兵オ一一九連隊長石口大佐の指揮に入り哈爾浜に転進し、爾後石口支隊として行動	軍令陸甲オ一三五号により編成下令 一部を海拉爾に残置し、	興安北省海拉爾において歩兵オ六四連隊の残置人員およびオ八国境守備隊の人員を基幹として編成完結	軍令陸甲オ一三五号により編成下令 一部を海拉爾に残置し、
龍江省富拉爾基着、同地において武装解除	但し三大隊は博克図において武装解除	本部	オ二一大隊の行動	博克図に集結同日同地出発	主力は興安北省開領北方に移動し興安嶺の陣地構築に任じた。	日「ソ」開戦に伴い部隊主力は開領陣地において戦闘体制に入る。	オ三大隊は開戦と共に師団予備隊として新南満北側に位置した。	オ一大隊は野砲兵オ一一九連隊長石口大佐の指揮に入り哈爾浜に転進し、爾後石口支隊として行動	軍令陸甲オ一三五号により編成下令 一部を海拉爾に残置し、

0421

720の2

至自											
11	11	8	8	8	10	10	10	9	9	9	8
18	15	17	10	9	17	14	14	21	2	1	20
海拉爾出發	同日	滿洲里經由入「ソ」	海拉爾殘留隊の行動	日「ソ」開戦により海拉爾殘留隊の東少尉以下二五〇名および帶刀准尉以下二六七名は独立混成才八〇旅団に配属、同地才二地区において戦闘し多数の損害をうけた	海拉爾において武装解除同日同地野戦兵器廠に收容	海拉爾才一作業大隊に編入	博克図出發	博克図才三作業大隊に編入	オ三 大隊の行動	満洲里經由入「ソ」	齊々哈爾集結
連隊長 大佐 三 浦 俊 雄											齊々哈爾出發

0422

歩兵第二五四連隊略歴

年月日	概要	通称号
年月日	摘要	要要
昭19 10 10	軍令陸甲才一三五号により編成下令	満才四八一部隊・宰才二〇四八一部隊
昭20 11 11	興安北省海拉爾においてオ二三師団の残置人員とオ八回境守備隊の人員を基幹として編成完結	
昭20 10 10	移駐のため海拉爾出発	
昭20 11 15	興安北省 免渡河着	
昭20 11 28	爾後同地付近の警備	
昭20 12 16	部隊主力をもつて興安北安省依力克得北方約四千の長釘山盤石の陣地構築に任じ、一部は免渡河兵當に殘留し、諸勤務並びに初年兵教育に従事	
昭20 12 19	日「ソ」開戦と同時に連隊主力は依力克得周辺の陣地（長釘山、盤石山、中村山、虎山等）に配備	
昭21 8 8	依力克得陣地を撤退し、興安東省博克図に向い出発	
昭21 8 14	博克図着、同地において武装解除	
昭21 9 16	博克図才四、才五作業大隊に編入	

0423

至自					至自				
8	8	8	8	8		8	10	10	10
15	12	11	10	9		12	13	11	12
満州里経由入「ソ」	博克団出發								
オ四、オ九中隊の主力およびオ二機関銃中隊の主力および各中隊弱兵は野砲 兵オ一一九連隊長石口大佐の指揮下に入り、石口支隊として哈爾浜防衛のため 哈爾浜に転進									
爾後石口支隊として行動									
免渡河残留隊の行動									
免渡河残留隊の主力は日「ソ」開戦に伴い興安北省牙克石東方卓山陣地を確保のため混成中隊を編成、山本中尉の指揮のもとに免渡河出發									
同日卓山着									
オ二大隊（除、オ四中隊、オ二歩兵砲小隊、オ二行李小隊）（長、長谷太尉）は山本混成中隊増援のため依力克得出發									
卓山陣地到着、山本混成中隊を掌握									
卓山陣地ならびに岩山（牙克石東方約二十糠）付近において「ソ」軍と激戦を交え多大の損害をうけた。									

721の3

昭 20									
8 8			9 9 8			8 8			8
22	19	15	1	25	22	19	15		
<p>同夜岩山付近を長谷大尉、松元中尉、中村見習士官等の各群に別れて出發し、浜洲線北方地区を博克図に向つた。山本混成中隊を卓山に派遣した残余の部隊は八月十一日免渡河を出發して烏奴耳の連隊主力に合流した。</p>									
<p>長谷大尉群の行動</p>									
<p>長谷大尉群は興安北省二十六号村を通過</p>									
<p>浜洲線を横断して師団主力と合流を企図したが既に部隊は撤退後であつたので更に齊々哈蘭に向かう</p>									
<p>開嶺北方において「ソ」軍の攻撃をうけ長谷大尉以下若干名戦死</p>									
<p>残余の者は札蘭屯付近で満人自警團により武装解除</p>									
<p>札蘭屯から博克図に移動し同地の作業大隊に編入</p>									
<p>松元中尉軍の行動</p>									
<p>開嶺北方山中で中村見習士官群と合流</p>									
<p>興安北省二十六号村に一泊</p>									

0425

昭 20						至自 109			至自 109			至自 8		
10	10	10	9	9	8	9	21	9	21	9	30	24	24	23
21	21	10	21	16	24	1221	9	21	9	30	24	24	23	
北安省 北安出發	北安小川作業大隊に編入	北安省 北安省	龍江省 嫩江着	興安分水嶺通過後	松本中尉群と別行動	齊々哈爾出發	滿洲里經由入「ソ」	齊々哈爾才七、才九、才一三作業大隊に編入	中村見習士官群と別行動	興安東省花見屯、那古屯、大阪開拓團	天草開拓團等を通過し、齊々哈爾に向つたがその間落伍又は土民の襲撃により二十數名の行方不明者を出した。	中村見習士官群と別行動	興安分水嶺通過	
						中村見習士官群の行動								

721の5

	昭 21
	2
	16
	黒河経由入「ソ」
隊長 大佐	
長 沢 太 郎	

0427

歩兵第二五五連隊略歴

通称号 満第五一五部隊 索第二〇四一五部隊

至自										昭 20	昭 19	年 月 日	概	要
9	8	8	8	8	8	8	6	10	10					
20	17	16	16	14	9	12	28	11						
興安東省博克圖	オ一	作業大隊	に	編入	停戦	主力は「ソ」開戦	主力は興安北省開嶺に移動し興安嶺の陣地構築に任じた	一部は海拉爾に残留、諸勤務に従事した	平林中尉以下約二五〇名は野砲兵オ一一九連隊長	石口大佐の指揮下に入り、石口支隊として哈爾浜防衛ため哈爾浜に出発、爾後	石口支隊と同行動	日「ソ」開戦	軍令陸甲オ一三五号により編成下令	興安北省海拉爾においてオ八團境守備隊の人員を基幹として編成完結 爾後同地付近の警備

0428

至自								
11	11	8	8	8	8	8	9	
25	15	17	16	9	18	9	21	
同日博克団出発								
満洲里経由入「ソ」								
海拉爾殘留隊								
海拉爾殘留隊は日「ソ」開戦に伴いその主力約一二〇〇名は中野大尉引率のもとに興安嶺の連隊主力に追及のため海拉爾出発								
開嶺西南方錐山付近において「ソ」軍の包囲攻撃をうけて脱出し得たものは數名でそのほとんどが戦死又は生死不明となつた。								
海拉爾殘留隊残余の約四〇〇名は海拉爾各陣地に入り独立混成歩八〇旅團長の指揮下に入り同地第一、オ二地区の戦闘に参加し多数の戦死者をだした。								
海拉爾各陣地において武装解除後同地の野戦兵器廠に収容								
海拉爾才二作業大隊に編入								
同日海拉爾出発								
満洲里経由入「ソ」								
連隊長 大佐 清水 義虎								

0429

第一一九師団挺進大隊略歴

通称号　宰オ二〇七一三部隊

年
月
日

概

要

摘要

昭
20

7 7

31 10

軍令陸甲才一〇六号により編成下令

興安北省開領において才一一九師団隸下各部隊よりの抽出人員をもつて編成完結

編成時各部隊は陣地構築中であつたため基幹人員のみをもつて編成し、大部は各隊からの差出し人員名簿のみであつた。

日「ソ」開戦と共に各部隊からの差出し人員を掌握して、それぞれ遊撃陣地を占領したが主力は戦闘せず

一部（才一中隊及び才二、才三中隊の各一部）は烏奴耳南方地区に陣地を占領し「ソ」軍と交戦し、多数の戦死者をだした

停戦命令を受領

主力は博克団において武装解除し同地に収容

博克団才三作業大隊に編入

723

10	10	8	8	8	9	7	7
14	14	17	16			31	10
博克団出発							

0430

723の2

至自 至自 至自

1110 1110 1010 10

221 112 3010 17

満洲里経由入「ソ」
一部は齊々哈爾において武装解除
齊々哈爾才一三、才一九作業大隊に編入

齊々哈爾出發
満洲里經由入「ソ」

隊長 少佐 小野 安一

0431

第一一九師団制毒隊略歴

通称号 满才五六〇部隊 宰才二〇四六〇部隊

年 月 日	昭 20 昭 19										概	要	摘要
	9	8	8	8	8	8	8	10	10	11			
29	22	20	17	16	12	9	28				軍令陸甲才一三五号により編成下令		
											興安北省海拉爾において才八国境守備隊の人員を基幹として編成完結		
											日「ソ」開戦と共に興安嶺陣地に移動		
											興安嶺陣地に到着		
											停戦命令受領		
											興安嶺より龍江省 富拉爾基着		
											富拉爾基出発同日齊々哈爾着		
											齊々哈爾第七作業大隊に編入		
											同日 齊々哈爾出發		
											満洲里經由入「ソ」		

隊長 大尉 入江義博

0432

搜索第一一九連隊略歴

通称号 满才二九六部隊、宰才二〇四九六部隊

										年月日	
											概要
											摘要
昭 20											
10	10	10	8	8	8	6	10	10	昭 19		
17	14	14	16		12	9	28	18			
満洲里経由入「ソ」	博克団に於出発	博克団、才三作業大隊に編入	博克団において停戦命令受領	主力は興安嶺にて陣地構築中日「ソ」開戦	主力は興安嶺陣地構築のため開嶺に移駐、一部を海拉爾に残置	軍令陸甲才一三五号により編成下今して編成完結	興安北省海拉爾において騎兵才九連隊および搜索才二三連隊残置人員を基幹として編成完結				
圖に移動				海拉爾殘留隊の橋本少尉以下七〇名は開戦と共に花岡軍曹以下二〇名を独立混成才八〇旅團に配属し、残余は橋本少尉の指揮のもとに連隊主力に追求した。	連隊主力は若豆山陣地守備を歩兵才二五三連隊才三大隊と交代し興安東省博克						

0433

至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自
1111	1111	11	8	8	8	109	109	109	8		
2518	1815	15	17	16	9	2121	122	101	15		
隊長	大佐	田中	泉	満洲里経由入「ソ」	海拉爾殘留隊の行動	齊々哈爾オ七、オ九、オ一三作業大隊に編入	乗馬オ二中隊および弱兵の一部は齊々哈爾に後退したが更に博克圖に逆送され同地で武装解除				
				海拉爾出發	齊々哈爾出發						
				海拉爾殘留隊花岡軍曹以下は海拉爾牌地において「ソ」軍と激戦を支え多大の損害をうけた。	海拉爾殘留隊花岡軍曹以下は海拉爾牌地において「ソ」軍と激戦を支え多大の損害をうけた。						
				同陣地において武装解除後同地野戰兵器廠に収容	同陣地において武装解除後同地野戰兵器廠に収容						
				海拉爾オ一、オ二作業大隊に編入	海拉爾オ一、オ二作業大隊に編入						
				海拉爾出發	海拉爾出發						

野砲兵第一一九連隊略歴

726

					年月日	通称号	概要	摘要
					昭20	滿才一一八部隊	率才二〇四一八部隊	摘要
8	8	6	5	10	昭19			
12	9	初旬		28 11		軍令陸甲才一三五号により編成下令		
						興安北省海拉爾において才二三師団残置人員および才八國境守備砲兵隊の人員を基幹として編成完結		
						才一中隊勝又少尉以下六〇名興安北省西額旗三河警備隊派遣、その状況は才一九師団三河の略歴参照		
						陣地構築のため興安嶺に移動		
						市原大尉以下六〇〇名は海拉爾に残留した		
						日「ソ」開戦とともに各隊を次の如く配属		
						歩兵才二五五連隊へ……才一大隊、才三大隊（除、才九中隊）		
						歩兵才二五四連隊へ……才十一中隊		
						歩兵才二五三連隊へ……才二大隊、九中隊		
						野砲兵才一九連隊直轄……才四大隊（除才十一中隊）		
						連隊本部、連隊段列の一部、才五、才八、才十中隊は連隊長石口 茂大佐の直		

0435

至自昭20										至自					
11	11	8	8	8	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	12
18	15	15	17	17	9	18	16	15	17	16	14	16	14	16	
海拉爾出發	海拉爾	海拉爾	海拉爾	海拉爾	滿洲里經由入「ソ」	海拉爾	齊々哈爾	齊々哈爾	主力は興安東省博克圖に集結後齊々哈爾に移動、同地において武装解除	オ一中隊長柴崎少尉以下約二五名、オ七中隊恩畑少尉以下約一七名を海拉爾殘留	接指揮により哈爾浜防衛のためオ一一九師団隸下部隊から差出しの人員を合せ	て石口支隊を編成し哈爾浜に転進			
海拉爾	海拉爾	海拉爾	海拉爾	海拉爾	海拉爾	海拉爾	齊々哈爾	齊々哈爾	齊々哈爾	齊々ハル	齊々ハル	齊々ハル	齊々ハル	齊々ハル	
陣地で武装解除後同地野戰兵器廠に收容	陣地	陣地	陣地	陣地	海拉爾	海拉爾	齊々哈爾	齊々哈爾	齊々哈爾	齊々ハル	齊々ハル	齊々ハル	齊々ハル	齊々ハル	
海拉爾オ一、オ二作業大隊に編入	海拉爾	海拉爾	海拉爾	海拉爾	海拉爾	海拉爾	齊々哈爾	齊々哈爾	齊々ハル	齊々ハル	齊々ハル	齊々ハル	齊々ハル	齊々ハル	

残留隊の主力は市原大尉指揮のもとに海拉爾出発興安嶺の主力部隊に追及した一部のものは（約二ヶ分隊）独立混成オ八〇旅團長の指揮下に入る。

726の3

至自 至自								昭 20	至自
1111	99	9	8	8	8	8	1111		
98	54	4	24	21	19	15	1815		
海林着	海林才一二六、才一二七作業大隊に編入	綏芬河経由入「ソ」	阿城に移動、同地で武装解除	一部現地召集解除	哈爾浜着、同日才四軍司令官の隸下に入る	石口支隊	満洲里経由入「ソ」		
隊長 大佐 石口 茂	横道河子着	その間家族保護のため一部行動							

0437

工兵第一一九連隊略歴

至 自			昭 20			昭 19			年 月 日	概	要	通称号 満オ二九五部隊、寧オ二〇四九五部隊
8	8	8	8	8	6	10	10	11				
16	16	14	9	9	ころ	28	11	軍令陸甲オ一三五号により編成下令				
								興安北省海拉爾においてオ八国境守備隊および工兵オ二三連隊の残置人員を基幹として編成完結				
								爾後同地付近の警備				
								部隊主力は興安嶺に転進爾後興安嶺新南溝陣地の構築				
								日「ソ」開戦と共に海拉爾殘留隊は興安嶺の主力に追及したが途中多数の落伍者を出した				
								海拉爾殘留隊の落伍者収容のため、田中中尉以下若干名を派遣したが途中「ソ」軍と遭遇して田中中尉以下多数の戦死者を出し生存者は本隊に復帰した				
								主力は免渡河街道の封鎖に任じ再度肉攻を実施し多数の戦死生死不明者をだした				
								龍江省富拉爾基着同地において武装解除				

0438

72702

至自	至自	至自	至自	至自
109	109	109	9	9 8 8
2129	2121	1021	20	2 2417
滿洲里經由入「ソ」	齊々哈爾出發	一部の者は齊々哈爾才七、才一三作業大隊に編入	龍江省齊々哈爾に集結	齊々哈爾才二作業大隊に編入
滿洲里經由入「ソ」	齊々哈爾出發	一部の者は齊々哈爾才七、才一三作業大隊に編入	龍江省齊々哈爾に集結	齊々哈爾才二作業大隊に編入
隊長 少佐 村 上 亮 二				

0439

至自											昭 20	昭 19	年 月 日	第一一九師団通信隊略歴
8	8	10	9	9	9	8	8	8	6	10	10			通称号 満才二二六部隊 寨才二〇四一六部隊
16	9	10	21	2	1	20	16	9	28	11	ごろ			概要
9														要
169														摘要
満洲里経由入「ソ」														
一部は齊々哈爾オ一三作業大隊に編入														
海拉爾殘留隊は日「ソ」開戦とともに独立混成才八〇旅團長の指揮下に入る														
海拉爾オ一、オ二地区陣地において「ソ」軍との戦闘に参加														
富拉爾基に集結同地で武装解除後齊々哈爾に移動														
主力は齊々哈爾オ一三作業大隊に編入														
齊々哈爾出発														
停戦命令受領														
同地において陣地構築中日「ソ」開戦、戦闘間は開戦陣地において通信業務に従事														
軍令陸甲才一三五号により編成下令														
興安北省海拉爾において才八〇旅團長の人員を基幹として編成完結														
部隊主力は興安嶺に移動														

0440

8

16

陣地において武装解除後海拉爾野戰兵器廠に収容され同地編成の作業大隊に編入し、同年十一月滿洲里経由入「ソ」

隊長 大尉 永 峰 広 倍

0441

輜重兵第一一九連隊略歴

通称号 満才九八部隊 寅才二〇四九八部隊

年月日

概

要

摘要

昭
20
昭
19

729

輜重兵第一一九連隊略歴							
8	9	9	8	8	6	10	10
16	23	11	17	16	9	1	28
一部富拉爾基において武装解除	博克団出発	同日満洲里経由入「ソ」	同日博克団集結	停戦後主力は興安陣地より後退準備中「ソ」軍戦車の攻撃をうけ戦死、負傷者を出した	主力は博克団において武装解除	主力は海ラ爾より興安嶺に移動	興安北省海ラ爾において野砲兵才二三連隊残留人員および才八國境守備隊などに輜重才九連才一中隊の人員を基幹として編成完結

0442

729の2

至自 至自 至自

9 9 9 9 8

1918 1716 1615 20

齊々哈爾臨時才二、才五作業大隊に編入
満洲里経由入「ソ」
齊々哈爾出発

隊長 少佐 坂井 哲

0443

第一一九師団兵器勤務隊略歴

通称号 奉才一二九九四部隊

年月日

概

要

摘要

Z30

												昭 20	昭 19	年月日	概	要	摘要
10	10	8	8	8	8	8	8	8	5	10	11						
13	10	21	20	18	17	16	12	9	11	11	11	軍令陸甲才一三五号により編成下今					
同地出発	齊々哈爾才一三作業大隊に編入	富拉爾基出發	龍江省富拉基着	同日博克圖出發	博克圖において武装解除	停戦	興安東省博克圖着	日「ソ」開戦に伴ない主力に追及のため海拉爾出發	爾後同地において兵器修理業務に任じた	興安北省海拉爾において才一一九師団よりの抽出人員を基幹として編成完結							
同地出発	齊々哈爾着	龍江省齊々哈爾着	同日博克圖出發	博克圖出發													

0444

730の2

10

21

満洲里経由入「ソ」

隊長 中尉 清 沢 秀 二

0445

第一一九師団病馬廠略歴

731

											昭 20	昭 19	年 月 日		通称号	滿才八五八部隊	宰才二〇四五八部隊
10	10	10	8	8	8	8	8	6	10	10	28	11		既			
21	12	10	23	16	16	10	9	ころ					軍令陸甲才一三五号により編成下今				
満洲里経由入「ソ」			革命により龍江省齊々哈爾撤退			新南溝に支廠を開設			與安北省海拉爾にて才八国境守備隊からの抽出人員をもつて編成完結								
齊々哈爾出発			齊々哈爾において武装解除		停戦	新南溝陣地に移動			爾後師団管下の病馬の収容に任じた。								
			齊々哈爾オ一三作業大隊に編入			日「ソ」開戦			主力は海拉爾より博克団に移動								

0446

1940年1月2日

8 9 9 9

19 29 21 21

一部は齊々哈爾才七作業大隊に編入
 齊々哈爾出發
 满洲里経由入「ソ」

新南溝支綱員は博克団に收容され同地所在部隊^と同行動

廠長 獣中尉 浜 中 勝五郎

0447

第一二三師団司令部略歴

通称号 满第八二二部隊
松風第一五二〇一部隊

年	月	日	略	歴	摘要
昭					
20					
至	自	至	自	至	自
9 9 9 9 9 9	8	8	3	1	
15 10 13 8 7	2	17	9	10	16
黒河経由入「ソ」。	孫吳出發。	孫吳において第三、第七作業大隊に編入。	日「ソ」開戦とともに花見山陣地に配備。	爾後同地付近の警備および陣地構築。	軍令陸甲第九号により編成下今。
師団長	中将 北沢貞次郎				

0448

歩兵第二六九連隊略歴						年 月 日	略	歴	摘要
昭	20								
8	7	4	3	1					
9		10	10	16	中旬				
						軍令陸甲第九号により編成下命。			
						独立歩兵第四四五五大隊、第四四七大隊の人員を基幹として北安省北安において編成完結。			
						黒河省孫興に移駐。			
						爾後同地付近の警備ならびに陣地構築。			
						軍令陸甲第一〇六号により編成改正下命。			
						第一大隊所属者は歩兵第三八六連隊に改編され、第五國境守備隊の人員をもつて第一大隊を編成した。			
						日ソ開戦時以後の状況			
						連隊本部第二大隊			
						孫興花見山陣地に配備			
						主力は孫興、一部は北安において武装解除。			
						勝山、河西、秋月山陣地等において陣地構築中日「ソ」開戦。			
						第一大隊			

0449

至自 至自

10 9 9 9 8 8

30 8 15 4 17 12

孫吳において武装解除。
相模山に集結。

本部は孫吳、主力は相模山に配備し一部を黒竜江岸に哈太陽、霍爾謨津、烏雲等一五ヶ所に監視哨を配備。

北安および孫吳においてそれぞれ作大に編入。

黒河経由入「ソ」。

連隊長

大佐 後藤三平

第三大隊

孫吳および北安において武装解除。

0450

至自至自至自										昭 20	年 月 日	步兵第二六八連隊略歴
9	9	9	9	9	8	8	8	3	1	通称号	満第九八一部隊	
30	10	27	6	12	4	20	18	12	9	松風第一五二〇二部隊		
										略	歴	
												摘要
爾後部隊は同地付近の警備および陣地構築。												
日「ソ」開戦にともない主力は荒神山、北水台、清澄山等の陣地に配備され、開戦後速日「ソ」軍の攻撃をうけたが損害は軽微であつた。												
第五中隊は本問大隊救援のため、相模山に派遣され、爾後陣地に後退途中八月十三日吳家窩堡において「ソ」軍の急襲をうけて甚大な損害をうけた。												
孫吳において武装解除。												
孫吳官舎街に収容。												
第一、第二、第一二、作業大隊にそれぞれ編入。												
孫吳出發。												
黒河経由入「ソ」。												

連隊長

大佐 山中高助

0452

至自至自										昭	年	月	日	步兵第二七〇連隊略歴
										20				通称号
9	9	9	9	9	8	8	8	3	1					満第一一一部隊
15	5	13	3	2	20	18	9	10	16					松風第一五二〇四部隊
黒河経由入「ソ」。										軍令陸甲第九号により編成下今。				
孫吳官舎に収容。										独立歩兵第四四六大队の人員を基幹として黒河省孫吳において編成完結。				
終戦、同日第三、第四、第五作業大队に編入。										爾後同地付近の警備および陣地構築に従事。				
孫吳において武装解除。										日「ソ」開戦にともない東風山、香取山、二条山陣地にそれぞれ配備された。				
連隊長														摘要
大佐	太	田	紀	一										

第一二三師団挺進大隊略歴

通称号 松風第一五二九五部隊

年	月	日	略	歴	摘要
昭 20					
9 9 8	8 8	7 7			
15 14 18	17 9	30 10			
孫吳において武裝解除。	黒河省孫吳において師団各隊よりの差出人員をもつて編成完結。	黒河省孫吳に於ける警備ならびに陣地構築。	日「ソ」開戦にともない秋月山（孫吳県）で「ソ」軍と交戦。	孫吳に撤退途中一本松高地において「ソ」軍の急襲をうけて多数の損害をうけた。	黒河経由入「ソ」。
大隊長 少佐 露木甚造					

0454

至自								昭 20	年 月 日	野砲兵第一二三連隊略歴	通称号	摘要
										満第五一四部隊		
										松風第一五二〇五部隊		
9	9	9	8	8	7	3	1					
16	15	4	18	9	10	10	16					
孫吳において独立混成第七三旅団砲兵隊の人員を基幹として編成完結。												
孫吳において武装解除。												
軍令陸甲第一〇六号により第五国境守備隊復帰による人員の一部を編入。												
日「ソ」開戦にともない花見山、勝武屯、東風山、荒神山に配備し「ソ」軍と交戦。												
黒河経由入「ソ」。												
連隊長												
中佐 町 田 賢 助												

工兵第一二三連隊略歴									
年	月	日	略	歴	摘要				
昭 20									
9 9 9 9 9 8 8 7 3 1									
104 8 3 7 2 13 9 10 10 16									
孫興陣地において武装解除。									
黒河経由入「ソ」。									
同地において第三、第七作業大隊に編入。									
孫興出發。									
軍令陸甲第九号により編成下令。									
黒河省孫興において独立混成第七三旅團工兵隊の人員を基幹として編成完結。									
同日より同地付近の警備および陣地構築。									
軍令陸甲第一〇六号により第五國境守備隊復帰による人員の一部を編入。									
日「ソ」開戰。									
連隊長									
少佐 広川文雄									

0456

						年	月	日	略	歴	摘要
						昭	年				
						20					
		9	9	8	8		3	1			
		15	13	17	9		10	16			
孫興付近の警備ならびに通信業務。		軍令陸甲第九号により編成下令。		黒河省孫興において独立混成第七三旅團通信隊を基幹として孫興において編成		完結。		黒河経由入「ソ」。		孫興において武装解除。	
孫興付近の警備ならびに通信業務。		花見山陣地において日ソ開戦。		建第三作業大隊を編成し孫興出発。		孫興長谷川義夫		孫興長谷川義夫		孫興長谷川義夫	